

カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施に関する方針）

本学の教育理念、建学の精神、教育目標を実現するために、次のことを意図し、カリキュラムを編成する。

一編成方針・教育内容一

- 1) 生命・医療倫理の原則に基づき職務を遂行できる高度専門職業人の養成
一生命倫理の教育を理念として根底に置く。
 - (1) 生命・医療倫理の教育には、基盤教育科目に「生命倫理」「看護倫理」を配し、大学院での高度専門職業人育成の根幹の一つとして医療倫理原理の修得を位置づけ、「看護研究（看護学研究法）」の科目では、医療倫理の研究を通して具体的に検討できるようにしている。
 - (2) 専門教育（専門領域）として、健康・療養支援看護学領域、MCH(周産期・母子)看護学領域、統合看護学領域の3領域を設定し、それぞれの領域の基礎を説明する科目として、各領域に「特論」科目を配置、これらの科目は、専門教育においても一貫して生命・医療倫理の原則を引き継いだ構成となっている。
- 2) 保健・医療・福祉現場の看護の質向上に直接的に寄与できる高度専門職業人の養成
一医療等現場の質向上に寄与できる実践力を重視する。
 - (1) 高度専門職業人の養成には、教育・研究者をめざす修士論文コースと高度看護実践者をめざす専門看護師コースがある。共通の基盤となる科目には、「看護理論」「看護管理論」「看護政策論」「看護教育論」などがあり、専門看護師コースの基盤科目としてはさらに「臨床病態生理学」「臨床薬理学」「ライフスパンフィジカルアセスメント」を配している。
 - (2) 修士論文コースでは、健康・療養支援看護学領域に、ヘルスプロモーション看護学、小児・子育て支援看護学、クリティカルケア看護学、療養支援慢性看護学、老年看護学、精神看護学の6分野を設定し、またMCH(周産期・母子)看護学領域に、MCH(周産期・母子)看護学の1分野を、更に、統合看護学領域に、看護政策・管理・教育システム(国際比較)、国際看護学の2分野を設定する。それぞれの分野において、健康・療養支援(健康・療養支援看護学領域)、女性の生涯にわたる健康、周産期における母子とその家族の健康とその逸脱を含むリプロダクティブヘルス(MCH看護学領域)、医療供給制度、効果的なリーダー・管理者、看護による国際協力(統合看護学領域)について探求する科目を配置し、未対応の課題や実践上の問題などを「特別研究」のなかで研究に起こし、修士論文においてその研究のプロセスと結論を表現することができるカリキュラムを編成する。
 - (3) 専門看護師コースには、健康・療養支援看護学領域に慢性専門看護師コース、MCH(周産期・母子)看護学領域に母性専門看護師コースを設定する。慢性専門看護師コースでは、長期療養を特徴とする慢性期疾患患者のケアに必要な支援技術と医療・地域連携に関する理論を学ぶ科目、専門看護師支援技術と連携医療を演習する科目、医療的措置・薬物療法への対処技術を修得する科目、更に、専門看護師技術や連携医療、薬物療法他治療的介入の実際を学ぶフィールド科目を配置し、母性専門看護師コースでは、周産期における母子と家族についての理論を学ぶ科目、周産期医療におけるエビデンス獲得やアセスメントに基づく看護ケアを探求する演習科目、更にそれらの基礎知識を実践に応用しながら高度看護実践を探求する科目、また、専門看護師機能や質保証に資する高度な看護ケア実践力を深めるためのフィールド科目を配置するなど、

各専門看護師コースにおいて、講義、演習、実習の重層的構造により、知識と実践の効果的連結を意図したカリキュラムを編成する。

3) 看護の実践・教育・研究を通して、わが国におけるロイ理論を含めた看護理論の基盤形成と展開に寄与する高度専門職業人の養成

—わが国におけるロイ理論を含めた看護理論の基盤形成と展開を図る。

- (1) 看護知識やケア技術の検証によるエビデンスの集積に寄与できる能力を獲得するための科目として、ロイ看護モデルを含む看護の理論を学ぶ科目「看護理論」と「EBNP特論」を有し、知識と実践スキルにおける課題と看護の役割について教育的に探求する科目「看護教育論」を配置する。

4) 国際的視野のもとに看護の実践・教育・研究を学際的に遂行できる高度専門職業人の養成

—国際性・学際性を重視した教育を行う。

- (1) 国際的視野に立った教育としては、「看護理論」は米国看護理論分析家による授業を配し、「異文化理解と国際医療協力論」では国際医療協力の交渉や実務の豊富な経験を有する者による授業を配し、国際医療協力を国際的・学際的に探求することができる科目を配置する。
- (2) 統合看護学領域（国際看護学分野）では「国際看護学フィールドスタディ」を配しており、国際看護学を実地での修学を通して深めることができ、実地フィールドで見いだした課題を研究として修士論文完成のプロセスにおいて探求する。

—教育方法・評価方法—

- (1) 実践や理論から導かれる自らの研究疑問に対して、調査研究によって探求する姿勢を育成する。
- (2) 各科目のシラバスに時間外学修の内容を明記し、十分な学修・研究時間の確保を促す。
- (3) 各科目の内容に応じた適正な評価方法をシラバスに明記し、さまざまな視点から学修成果を評価する。
- (4) 学位論文審査に係る評価基準を定め、定められた審査基準、評価体制、方法により評価する。